

あけどいせき 明戸遺跡

- 所在地 とわだし おおあざたきさわあざあけど 十和田市大字滝沢字明戸
- 時代 じょうもんじだい 縄文時代
- 出土遺物 じょうもんどき せっき せきせいひん どせいひん どうぶつ しょくぶついたい 縄文土器、石器、石製品、土製品、動物・植物遺体ほか
- 出土遺構 たてあなじゅうきよあと はかこう ちょぞうけつ まいせつどき 竪穴住居跡、墓坑、貯蔵穴、埋設土器ほか
- 報告書名 1983年 明戸遺跡発掘調査概報(十和田市教育委員会)
1984年 明戸遺跡発掘調査報告書(十和田市教育委員会)
2007年 明戸遺跡Ⅱ(十和田市教育委員会)
2009年 明戸遺跡Ⅲ(十和田市教育委員会)
2010年 明戸遺跡・高屋遺跡(青森県教育委員会)
2010年 高屋遺跡Ⅱ・明戸遺跡Ⅴ(十和田市教育委員会)

解 説

市街地の南約 10 km、ごとうがわ しりゅう はさ ぜつじょうだいちじょう後藤川とその支流に挟まれた舌状台地上にあります。十和田市を代表する縄文遺跡であり、1983年、2006年～2009年に 5 度ほど調査がおこなわれており、ぜんき ばんき縄文時代前期～晩期にいたる遺構、遺物が多数発見されています。

前期から中期にかけてだんぞくてき しゅうらく きず断続的に集落が築かれていたことが判明しました。前期においては、ぜんきまつよう前期末葉を中心として、竪穴住居跡 23 軒、貯蔵穴 20 基、土坑 10 基、埋設土器 8 基が発見されており、平成 20 年の調査では長辺が 13m 以上を超える大型の住居跡もみつかっています。

中期においては、竪穴住居跡 6 軒、土坑 9 基(貯蔵穴、どこうぼ土坑墓)が発見されています。昭和 57 年の調査では、しょうしつじゅうきよ たんかしゆし焼失住居より多量の炭化種子(クリ、オニグルミなど)が出土しており、じゅうきよ やねうら ほかん住居の屋根裏に保管されていたものではないかと推定されています。

一方、ばんき晩期においては、どこうぼ土坑墓 19 基が発見され墓域であったことがわ

かりました。中には人骨や勾玉まがたまや丸玉まるだまなどが発見されたものもあります。また、遺構の外から完形に近い土器が多量に出土したほか、土偶どぐう、岩偶がんぐう、土版どばん、岩版がんはん、石棒せきぼう、石剣せっけんなどが出土しており、祭祀さいしがおこなわれたのではないかと考えられています。



竪穴住居跡(縄文時代中期)



土坑墓(縄文時代晩期)



注口土器



香炉形土器



台付浅鉢形土器



土偶



岩偶



岩盤

縄文時代晩期の出土遺物